

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (キッズ)		13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士		

### 授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や、今後の教員に求められる資質・能力について学び自らの適性を見出す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

### 授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、調査・発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員の職務内容、服務上や身分上の義務について理解し、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

### 授業計画

1. 「教職概論」科目の特性と概要
2. 教職の意義
3. 幼稚園教育と小学校教育
4. 教員の歴史、女性と教職
5. 学校の組織と運営
6. 教員の職務内容
7. 教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障
8. 学び続ける教員へ(教員のライフステージと研修制度)
9. 国際化・情報化と教員の役割
10. 学校における社会体験とキャリア教育
11. 様々な問題行動とカウンセリングマインド
12. 特別な支援を要する幼児・児童への対応
13. 学校(園)・地域・家庭の連携と役割
14. チーム学校の意義と実際について
15. 今後の教員に求められる資質・能力(専門職としての教員)まとめを行ってから試験をする

### 授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや自修シート他の作成により、自己の考えを深め、知識の定着を図る。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①リフレクションシートや課題レポートの提出を2回求め、講義中にフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき、3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

### テキスト

古橋和夫(編)『新訂 教職入門 未来の教師に向けて』2018年(株)萌文書林

### 参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣アルマ  
文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』  
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

### 留意事項

保育士資格と幼稚園教員免許の併有による「保育教諭」としての要請も高まりつつある。教員を目指す学生としての意識を高くもって授業に臨んでもらいたい。

### 教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	ET	13815	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員		

### 授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)の育成を目指す。

### 授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

### 授業計画

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4. 幼児期から青年期において、社会性の発達
5. 幼児期から青年期における現代の発達課題
6. 認知発達、認知機構の変遷
7. 主体的な学びの開発と体系化
8. 主体的、対話的で深い学びの実践例
9. 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
10. 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
11. 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
12. 学習成果の可視化
13. 主体的な学習、思考力を育む学習集団
14. 発達障害の理解と支援
15. まとめと振り返り

### 授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

### 準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』株式会社E R P

### 参考図書

授業中に紹介する

### 留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論 (中高)			13853	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	中学校教育研究会研究部会長 中学校長 神戸市教育委員会指導主事			

### 授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、学校と地域との連携の取り組みの中から学校安全の在り方や危機管理について考察する。

### 授業計画

1. 学校教育と公教育について
2. 教育行政の仕組みについて
3. 教育改革の歴史概要
4. 学校教育における法制度について
5. 学校の組織と運営について
6. 学校における教員の在り方について
7. 学校経営と教師力
8. 学校と地域の連携について
9. 学校教育の評価について
10. 変容する子どもの生活と教育的な課題
11. 安全教育・安全管理の取り組み
12. 学級経営の効果的な指導法について
13. 災害時に学校が果たす役割について
14. 学校における危機管理のあり方
15. 開かれた学校づくりについて・まとめ

### 授業の方法

レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

### 準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べたり、レポートを作成したりすること。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

### テキスト

テキストなし

### 参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

### 留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。

### 教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

### 授業の到達目標

中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につけるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）をめざす。

### 授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

### 授業計画

1. 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
2. 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
3. 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
4. カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
5. 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
6. 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
7. カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
8. 気持ちの良いクラスづくりに欠かせない相互受容の大切さを理解する。
9. 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
10. 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
11. 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
12. 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
13. 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例

から学ぶ。

14. 不登校などの問題を一人が抱え込むことがないように校内体制の整備計画について学ぶ。
15. 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専門職との連携の必要性を理解する。

講義後に試験を実施

### 授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

### 準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけでなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

必要な場合授業時に指示する

### 参考図書

授業時に紹介する

### 留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

### 授業の到達目標

家族やその生活の研究に必要な基礎知識を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

### 授業の概要

家族への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この演習では、女性の晩婚化、少子化、仕事と家族的責任(育児や介護等)の調和、親子関係、きょうだい関係、離婚、再婚など、家族をめぐる様々なテーマに、学際的に接近したい。まず演習Iでは、家族社会学を中心とした家族研究の基礎知識を身に付ける。歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶ。

### 授業計画

1. 家族とは
2. 家族研究の方法 1
3. 家族研究の方法 2
4. 研究テーマの設定
5. 文献・資料の収集と整理
6. 家族の研究論文を読む 1
7. 家族の研究論文を読む 2
8. 家族の研究論文を読む 3
9. 家族の研究論文を読む 4
10. 個人研究の発表 1
11. 個人研究の発表 2
12. 個人研究の発表 3
13. 個人研究の発表 4
14. 現代の家族問題
15. まとめ

### 授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点する。

### テキスト

なし。

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 留意事項

「現代家族関係論」を履修しておくことが望ましい。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	臨床心理士、学校心理士S V、公立小教員			

### 授業の到達目標

人は互いに影響しあって暮らしている。そこで、対人関係(家族、仲間、教師、保護者、組織)における自他の行動を、科学的に考え分析する。さらに、心理的援助者として必要な自己理解、カウンセリング技法、SST、ストレスマネージメント、アンガーマネージメント等、子ども(人)を理解、支援するために役立つであろう技法の基本を習得する。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養う。

### 授業の概要

益々価値観が複雑、多様化する現代社会において、保育・幼稚園・学校で課題となっている実際のケースを取り上げて、学校・園現場を含め、社会に出た時に即戦力となるテーマを見つけられるように支援する。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. ケーススタディーその1 子ども
3. ケーススタディーその2 子ども
4. ケーススタディーその3 保護者等
5. ケーススタディーその4 保護者等
6. 共有するテーマの絞り込みその1
7. 共有するテーマの絞り込みその2
8. 各自が研究の方向性について報告・意見交換その1
9. 各自が研究の方向性について報告・意見交換その2
10. kj法によるテーマ分類1 小表札討議
11. kj法によるテーマ分類2 中表札討議
12. グループ発表準備1
13. グループ発表準備2
14. 発表会
15. 総括

### 授業の方法

講義中心ではなく、学生同士が双方向の討議することもとり入れて、主体的に参加できるようにする。自分の意見を話し、相手の考えを聞くことから、自己受容、他者理解を深め、コミュニケーション能力を培う。

### 準備学修

日常生活で見聞きしたことに、自分なりの考えを持つ習慣を意識すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

必要に応じて紹介する

### 参考図書

必要に応じて紹介する

### 留意事項

自分の考えを整理する目的で、レポートの提出を求められることがある。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	公立学校教員、学校心理士S V、臨床心理士			

### 授業の到達目標

科学的かつ客観的な視点で事象を判断できる能力を培う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

### 授業の概要

共同研究として、一つのテーマを多様な視点で見つめ、検証する。その中で、クリティカルシンキングの基本を習得することで、次年度の卒業研究において、客観的な根拠を示して他者に説明できるような能力を養う。

### 授業計画

1. 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
2. 各自の興味関心を聞き合う。
3. 各自の興味関心の集団討議
4. 各自のテーマを分類し、共同研究テーマを設定する。
5. 研究計画・文献・資料に関する指導1
6. 研究計画・文献・資料に関する指導2
7. 研究計画・文献・資料に関する指導3
8. 研究テーマの検討と討議1
9. 研究テーマの検討と討議2
10. 研究テーマの検討と討議3
11. 各自の研究進捗報告会1
12. 各自の研究進捗報告会2
13. 各自の研究進捗報告会3
14. 卒業研究に向けての質問会
15. まとめ

### 授業の方法

グループ討議により自分のテーマを複数の視点から見つめなおしながら進める。

### 準備学修

先行研究のリサーチを行ったうえで研究テーマを絞り込む。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

必要に応じて紹介する。

### 参考図書

必要に応じて紹介する。

### 留意事項

ボランティア活動等でネットワークを広げ、さまざまな分野で生の声を調査できるようになることを期待する。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

### 授業の到達目標

演習Ⅰを通して、ドキュメンテーション作成の基本技術を習得する。また、各自の研究したい内容や方向性に基づいて、関連する文献や資料を収集し研究テーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

各自が研究したい内容について、文献や資料を検索したり実習の記録をもとに調査を進めたりする。さらに、発表・討議を通して研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てるようにし、演習Ⅲへの見直しをもつ。

### 授業計画

1. 演習Ⅱの進め方について
2. 質問紙法について
3. 非構造的面接法について
4. 概念抽出までの手続き
5. 研究活動における倫理
6. 実地研修①
7. 実地研修②
8. 実地研修のまとめ③
9. ドキュメンテーションを使ったプレゼンテーション
10. 研究マップ発表
11. 仮研究テーマでのミニ論文発表①
12. 仮研究テーマでのミニ論文発表②
13. 仮研究テーマでのミニ論文発表③
14. 研究計画、研究方法の検討
15. まとめを行ってから試験をする

### 授業の方法

伝えやすく、分かりやすい資料作成をもとに、毎回発表し合う。ディスカッションにより、根拠や理由、原因や課題などを見出すようにし、互いの発表内容を高めていくようにする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

### テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

### 参考図書

『保育学研究倫理ガイドブック』（株/フレーベル館）『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

### 留意事項

提出物は設定された期限までに提出すること。

### 教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。



演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

### 授業の到達目標

卒業研究計画書を作成する。卒業研究全体の3分の1を完成させる。研究する視点や態度、論理的に考え書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

### 授業の概要

自分の研究テーマに基づいて研究を進める。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、研究を深める。

### 授業計画

1. 卒業研究テーマの確認
2. 卒業研究の方法等の確認
3. 卒業研究の執筆手順
4. 卒業研究中間報告 1
5. 卒業研究中間報告 2
6. 卒業研究中間報告 3
7. 卒業研究中間報告 4
8. 卒業研究中間報告 5
9. 卒業研究中間報告 6
10. 卒業研究中間報告 7
11. 卒業研究中間報告 8
12. 卒業研究中間報告 9
13. 卒業研究中間報告 10
14. 今後の研究の進め方
15. まとめ

### 授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点する。

### テキスト

なし。

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	公立学校教員 教育委員会 学校心理士SV 臨床心理士			

### 授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して、研究テーマに迫るための必要なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、E(倫理)を養う。

### 授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、現場での適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見直しをもつようにする。

### 授業計画

1. 演習Ⅲの進め方について
2. 卒業研究・論文のまとめ方について
3. 研究対象と調査期間について
4. 研究方法と分析方法について
5. 調査の進捗報告と討議①
6. 調査の進捗報告と討議②
7. 各自の先行文献調査のまとめ①
8. 各自の先行文献調査のまとめ②
9. 「問題と目的」の発表・討議①
10. 「問題と目的」の発表・討議②
11. 「研究方法」の発表・討議①
12. 「研究方法」の発表・討議②
13. 仮説と今後の見通しについて発表・調整①
14. 仮説と今後の見通しについて発表・調整②
15. まとめを行ってから試験をする

### 授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への発言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

### テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

### 参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

### 留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、質的・量的調査について計画的に進めること。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

### 授業の到達目標

卒業研究を完成させる。研究する視点や態度と論理的に書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

### 授業の概要

プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、研究内容を深める。全体指導と個別指導を重ねて、卒業研究を完成させる。

### 授業計画

1. 演習と卒業研究の進め方
2. 研究発表と質疑応答 1
3. 研究発表と質疑応答 2
4. 研究発表と質疑応答 3
5. 研究発表と質疑応答 4
6. 研究発表と質疑応答 5
7. 研究発表と質疑応答 6
8. 研究発表と質疑応答 7
9. 研究発表と質疑応答 8
10. 研究発表と質疑応答 9
11. 研究発表と質疑応答 10
12. 卒業研究の要約
13. 卒業研究の修正
14. 卒業研究の発表
15. まとめ

### 授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点する。

### テキスト

なし。

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	臨床心理士、学校心理士S V、公立小教員			

### 授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力するなど自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)A(自律)I(知性)E(倫理)を養う。

### 授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

### 授業計画

1. 分析結果報告・仮説の検証①
2. 分析結果報告・仮説の検証②
3. 分析結果と考察①
4. 分析結果と考察②
5. 分析結果と考察③
6. 分析結果と考察④
7. 分析結果と考察⑤
8. 研究のまとめと総合考察①
9. 研究のまとめと総合考察②
10. 今後の課題について
11. 分析結果一覧表の作成
12. 卒業研究の校正①
13. 卒業研究の校正②
14. 最終報告とまとめ①
15. まとめ②を行ってから試験をする。

### 授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

### 欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

### テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

### 参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

### 留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意識と責任感を持ち続けるようにすること。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員、上級教育カウンセラー			

## 授業の到達目標

人間の心身の発達と行動を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化あるものとして捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。  
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、E（倫理）を養う。

## 授業の概要

人間の心身は、他者を含む環境との相互的関わりを通して発達していくことを、代表的な発達・学習理論を通じて紹介していく。また、精神活動の成立と展開にとっての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、特に乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等についての具体的な保育・教育実践の課題を考察する

## 授業計画

1. 精神機能を発生的に把握すること 生物としての発生
2. 精神機能を発生的に把握すること 遺伝と環境
3. 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
4. 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
5. 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)・運動の発達
6. 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)・言語の発達
7. 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)・認知の発達
8. 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)・動機づけ・集団づくり
9. 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降) 学習活動の在り方
10. 初期経験と発達:野生児の例から
11. 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
12. 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
13. 発達研究における生態学的視点
14. 発達における障害の位置づけと診断・療育
15. 人格としての生涯発達およびまとめ

## 授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

ら学習を進める。

## 準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

## 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

## 欠席について

学内規則に準ずる

## テキスト

必要な場合授業時に指示する

## 参考図書

佐藤眞子編 『人間関係の発達心理学 2 乳幼児期の人間関係』 培風館  
川島一夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達—新しい発達心理学への招待—』 福村出版 2010

## 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論			17205	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

## 授業の到達目標

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている内容について十分に理解するとともに、教育・保育の歴史の変遷や現在の取り巻く状況を理解する。また、基礎的・総合的に乳幼児期の教育・保育及び保育者の役割などについて理解する。この科目ではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

## 授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解きながら、保育内容・子ども理解・教師の役割・保護者との連携などについて、段階を追って学修を進める。情報機器及び教材の活用を図りながら、具体的場面を想定した指導実践力の基礎作りをしていく。

## 授業計画

1. 保育の基本(1)幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等について
2. 保育の基本(2)「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の重要性について
3. 保育内容の歴史の変遷
4. 子どもの発達の特性
5. 環境を通して行う教育、遊びを通しての総合的な指導(情報機器及び教材の活用を含む)
6. 養護と教育、乳児保育、長時間保育
7. 保育内容 5領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
8. 遊んでみよう(1)歌って手遊び(教材収集)
9. 遊んでみよう(2)歌って手遊び(教材研究)
10. 遊んでみよう(3)歌って手遊び(グループ発表)
11. 保育の展開(1)発達や学びの連続性、小学校教育との円滑な接続
12. 保育の展開(2)保護者との連携、家庭生活との連続性
13. 保育の展開(3)子育ての支援、多文化共生の保育
14. 保育の展開(4)特別な支援を必要とする子どもの保育
15. 乳幼児期の保育・教育を取り巻く現状と課題、定期試験

## 授業の方法

講義を中心とするが、情報機器や教材を活用するとともに、ワーク

やグループディスカッションなどを多く取り入れる。

## 準備学修

Webで参照すること。

## 課題・評価方法

- ①授業内で小テスト等を5回程度実施し、フィードバックを行う。
- ②ワークシート25% 授業に臨む姿勢25% 定期試験50%

## 欠席について

欠席1回につき3点減点

## テキスト

「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)「保育所保育指針解説」(厚生労働省)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)「あそびうた大全集200」(永岡書店)「実践!造形あそび」(ナツメ社)

## 参考図書

幼稚園教育指導資料 第5集「指導と評価に生かす記録」(チャイルド社)

「ようちえんあしたもいききたいな」(全国公立幼稚園長会)

## 教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

### 授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じる様々な要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

### 授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

### 授業計画

1. 発達に課題がある子の「困り感」への気づき
2. 保育士・教師としてできる個別配慮
3. 介助者が加わったときの役割
4. 室内トラブルへの対応その1解決のポイント
5. 室内トラブルへの対応その2たち歩きやエスケープ
6. 室内トラブルへの対応その3人間関係のトラブル
7. 室内トラブルへの対応その4パニックを起こしたときの対処
8. 保護者とともに子どもを育てるその1保護者面談の進め方
9. 保護者とともに子どもを育てるその2親から学ぶ支援のあり方
10. 周りの子どもやその保護者への対応その1周辺の子ども
11. 周りの子どもやその保護者への対応その2保護者に対して
12. チーム支援その1確かな情報を共有する
13. チーム支援その2実態の把握方法
14. チーム支援その3組織的支援の進め方
15. 学校・園に合ったチェックリストを作成

### 授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グループトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

### 準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

杉山 登志郎 『子どもの発達障害と情緒障害』（健康ライブラリーイラスト版）

### 参考図書

必要に応じて紹介する。

### 留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理			17607	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 民間保育士			

### 授業の到達目標

1. 保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針について基本的知識を得る。
3. 保育内容と方法についての基本的知識を得る。
4. 保育の制度・思想についての基本的知識を得る。
5. 保育の現状と未来について、自分なりに考えをまとめ、発言できる。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

1. 保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的知識を得ていながら、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。
2. 現代における保育・幼児教育の社会的役割を理解する。
3. 現代における子育て支援について理解を深める。

### 授業計画

1. 保育原理を学ぶ意義について
2. 保育の方向性と保育実践の基礎になる発達観
3. 保育に関する諸法令からみる保育の原理
4. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(1)
5. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(2)
6. 養護と教育の一体化について
7. 保育実践の基本的構造について
8. 多様な保育内容とその方法
9. 子育て支援について
10. 西洋と日本の保育の創成期
11. 西洋の保育実践の発展過程
12. 日本の保育実践の発展過程
13. 児童中心主義の保育を探る
14. 保育者の在り方を考える
15. これからの保育にむけて  
まとめを行ってから試験を行う。

### 授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。毎回、前週の講義の振り返りを行い、確認テストを適宜行うことで知識の定着を図る。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点30%確認小テスト20%定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

### テキスト

佐伯一弥・金瑛珠「Workで学ぶ保育原理」株式会社わかば社

### 参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説書」  
内閣府・文部科学省・構成労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」



関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（音楽表現）			17655	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	1				

### 授業の到達目標

子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることができる指導者を目指し、発達や現代の環境等を踏まえて様々な表現活動が展開できるよう教材を研究し、演習する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

1. 領域「表現」の目標・内容を学び、活動内容や保育者としての配慮を理解する。
2. 音楽の基本となるリズムについて学習し、手拍子やリズム合奏および身体表現活動などの演習を通して、リズムの意義や活動方法を理解する。
3. 日々の活動に必要な歌唱教材を研究し、子どもの成長に合わせた活動内容や指導法を習得する。

### 授業計画

1. 領域「表現」について・子どもの成長と音楽的発達
2. リズム・リズム遊び
3. 器楽合奏
4. 器楽合奏
5. 子どもの歌について（わらべうたと童謡）
6. 子どもの歌の教材研究と指導法
7. 指導案作成と実践
8. 授業の振り返りとまとめ

### 授業の方法

講義と演習を中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ① 授業の課題ごとの発表や演奏に対し、フィールドバックを行う。
- ② 平常点70%、レポート30%

### 欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

### テキスト

「あそびうた大全集200」細田淳子著 永岡書店発行

### 参考図書

授業時に指示する。

### 留意事項

爪は必ず切ること。動きやすい服装で受講すること。

### 教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小		17657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、上級教育カウンセラー、教育委員会			

### 授業の到達目標

激変する社会に対応できる子どもたちの育成に必要な資質や能力を高めるために、教育技術について理解を深めるとともに情報機器や教材作りへの関心を高める。また、アクティブラーニングの意味を理解するとともに、参加体験・ディスカッションを通して使える技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成をめざす。

### 授業の概要

教育方法の概要、教育方法学の歴史、日本の授業と授業研究、教室の日常会話から学ぶこと、コンピューターと教育。などを軸として『学び』について深く考える。さらに、激変する社会に対応できる教育の方法や技術について学ぶとともにそれを生かした情報機器の活用能力を高める。今日の教育課題にも対応できるように、新学習指導要領からキーワードを解説する。

### 授業計画

1. 教育方法と授業について基礎的な理論を理解する。
2. 教育方法をより深く理解するために日本と諸外国とを比較して学ぶ。
3. 授業と教育方法の基本原則の一つとして系統学習と問題解決学習を理解する。
4. 個々の考え、意見を授業で分かち合い高めあう授業の創造。
5. 自分の考えと他者の意見を議論しながら、主体的・対話的な深い学びについて体験する。
6. 系統的な学び、単元を貫いた授業づくりのための教材選定、教室環境を理解する。
7. 育みたい資質・能力を育む教材研究と授業のありかたを理解する。
8. 聞き手によくわかる話し方（話法）について基礎的な技術を身につける。
9. めあてを共有できるような板書の工夫を考える力を育てる。
10. 学習指導案での子どもの実態を把握する技術を理解する。
11. 学習指導案での教材の持っている価値を見抜く技術を理解する。
12. 学習指導案での指導観の意義と書き方を理解する。
13. 学習指導案での展開部について、時間配分や軽重を考えながら書くようにする。

14. 幼児の興味関心を高める情報機器、ソフトウェアを選定し活用することができる。
15. 子どもたちの実態や効果的な時期にあった情報機器を活用しその能力を高めかつ、情報モラルも理解する。  
講義後、試験を実施

### 授業の方法

講義、発表とワークショップ

### 準備学修

参考図書からレポートを指示することがある

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

学内の規定に準ずる

### テキスト

必要な場合授業時に指示する。

### 参考図書

必要に応じて指示する

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（幼小）			17683	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、 上級教育カウンセラー、教育委員会			

### 授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。  
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

### 授業計画

1. 特別支援教育（インクルーシブ教育含む）の理念や制度
2. 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
3. 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
4. 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
5. 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
6. 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
7. 合理的配慮の必要性と生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
8. 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
9. 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
10. 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
11. 様々な障害種、重複障害と個別の教育支援
12. 特別支援教育コーディネーター等との連携
13. 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
14. 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別の教育支援
15. 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援

### 授業の方法

講義、発表とワークショップ

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

### 欠席について

学内の規定に準ずる

### テキスト

必要に応じて指示する

### 参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）。

### 留意事項

必要な場合授業時に指示する。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法			17684	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。指導主事経験あり。 総合的な学習の時間では、国際理解のテーマで研究発表会も行う。			

### 授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、外観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、発表・討議を通して深めていく。  
また、総合的な学習の時間の意義や目標、各小学校の目標に沿った指導計画の作成、授業づくり・指導法についてのポイントを明確にしていく。  
KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

学校現場での具体的な教育課程、カリキュラム・マネジメントの進め方を伝えていく。法令や学習指導要領解説と学校現場の実践と成果（そこにある課題や悩み、子供たちの姿、地域の教育力）とをつないで学生の理解を図っていく。  
また、総合的な学習の時間の指導法においては、目標に基づいた指導計画、単元計画の作り方、事例研究、指導案作りを進めていく。

### 授業計画

1. 教育課程の基準（改定の経緯・意義と基準となる法制）
2. 学習指導要領の改訂の変遷
3. 小学校教育の基本と教育課程の役割（カリキュラム・マネジメントの充実）
4. 教育課程の編成（求められる資質・能力と共通の事項）
5. 教育課程の実施と学習評価（主体的・対話的で深い学びの実現にむけて）
6. 児童の発達の支援（発達支援と子に応じた指導の充実）
7. 教育課程の改善と学校評価（教育課程におけるPDCA）
8. 道徳教育推進上の配慮事項（豊かな体験活動、家庭・地域社会・学校間の連携）
9. 総合的な学習の時間の目標（目標の構成・趣旨・学習指導のポイント）
10. 各学校において定める目標及び内容（全体計画と年間指導計画）
11. 単元計画と学習指導の在り方「福祉」の学習を通して
12. 総合的な学習の時間の指導「伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」
13. 総合的な学習の時間の指導「環境」
14. 総合的な学習の時間の指導「国際理解」
15. 学習評価の在り方・定期試験

### 授業の方法

学生の発表・論述を大切に、そこから生まれる疑問について理解を深めていく。学校現場での具体的な実践を常にはさむことで、現場での取り組みについて共感を深めていく。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題：与えられたテーマに対して自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。  
評価方法：平常点50% 定期試験50%

### 欠席について

欠席は1回につき4点減点。

### テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「総則」「総合的な学習の時間」 文部科学省

### 参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

### 留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC		17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

### 授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

### 授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責について理解を深める。

### 授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
2. 教育制度の歴史と発展 1
3. 教育制度の歴史と発展 2
4. 子どもの権利と人権 1
5. 子どもの権利と人権 2
6. 教育制度を学ぶ意義 1
7. 教育制度を学ぶ意義 1
8. 教育法 1
9. 教育法 2
10. 教育の目的と目標
11. 学校の制度
12. 義務教育の制度
13. 教育の機会均等
14. 教職員の制度
15. まとめ

### 授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

### 準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べた

り、レポートを作成したりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

出席については、大学が認める欠席以外考慮しない

### テキスト

必要な場合授業時に指示する。

### 参考図書

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

### 留意事項

出席と授業態度を重視する。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石田 伸子	選択	2	私立幼稚園教員			

### 授業の到達目標

教育要領には「見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる」のが終了時の具体的な姿として示されている。幼児期に身につけるべき、心と身体の健康に関する内容が理解できること。また、実際に体を動かすことの楽しさ・心地よさを体験し、発達に応じた幼児の運動遊びの指導法を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

### 授業の概要

毎日の生活を満足感を持って楽しく充実して過ごすには健康が基本になる。健康であるということは生活上すべての活動の基本となることである。基本的な生活習慣の自立への指導から、健康な身体作り・健康管理・安全教育など、幼児自ら心身ともに健康な生活ができるようにするには何が必要か、発達の段階を踏まえて学習する。

### 授業計画

1. 健康とは何か
2. 子どもの身体の発育・発達
3. 乳幼児期の運動
4. 乳幼児期の安全教育と病気の予防
5. 運動遊び(実技)①(縄、新聞紙、ボールなどを使った遊び等)
6. 運動遊び(実技)②(大縄、フープを使った遊び、用具を使わない運動遊び等)
7. 運動遊び(実技)③(運動用具一平均台、跳び箱、マット等を使った遊び等)
8. 乳幼児期の生活習慣の形成
9. 乳幼児期の遊びと運動
10. 乳幼児期の生活と食
11. 領域「健康」の理解と指導法
12. 領域「健康」をめぐる現代の諸問題
13. 指導計画作成から保育へ①
14. 指導計画作成から保育へ②
15. 「幼児教育指導法」[初等音楽]と連携によるマリア幼稚園実習

### 授業の方法

テキストに添って講義を進めるが、事例を多くとり入れ、理解しや

すいようにする。ディスカッションや実技を取り入れ、主体的に体得していけるようにする。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

グループ発表後は、教員によるフィードバックを行う。実技の積極性、動きなどを評価する。平常点50% 定期試験50%とする。

### 欠席について

欠席数は成績評価に反映する

### テキスト

演習 保育内容「健康」－基礎的事項の理解と指導法－川邊貴子・吉田伊津美編著 建帛社

### 参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

### 留意事項

実技①②③は、運動しやすい服装(名前がわかりやすい名札あるいはゼッケンをつけること)・体育館シューズ・新聞紙・縄跳び用縄を持参のこと。場所は未定。